

<国語部会>

I 研究主題

「書くこと」の領域における指導と評価の在り方

— 評価結果を生かした効果的な指導の工夫について —

II 研究の概要

学習指導要領には、「書くこと」の目標として、「自分の考えをまとめ、立場を明らかにし、相手や目的に応じて論理的で効果的な文章を書くことのできる能力を高めるとともに、書くことにより生活を豊かにしようとする態度を育てるようにする。」と示されており、「書くこと」の言語能力を中学校三年間で確実に育成することが求められている。

このことを踏まえ、互いの立場や考えを尊重する態度の育成を目指し、基礎・基本の確実な定着を図り、個に応じた指導を一層推進するという観点から、指導と評価の一体化を図る指導の工夫について研究を進め、「書くこと」の領域において、指導過程における評価結果を生かした効果的な指導方法の開発を行った。

III 研究の内容

1 「書くこと」の指導における主な問題点

「書くこと」の指導における主な問題点として、次のようなことが挙げられる。

- 書くことを面倒だと感じたり、題材に興味を示さなかったりすることへの指導が難しい。
- 書くことのできる能力差が大きく、一斉指導の中で個に応じた指導をするのが難しい。
- 生徒の作品を評価する評価内容や評価方法が、どの単元でも画一的になってしまう。

これらを解決するためには、生徒が興味・関心をもてるような題材を工夫すること、指導過程に個に応じた補足的な学習や発展的な学習をあらかじめ計画すること、単元の指導目標を明確にしてポイントを絞った評価をすること、さらに自己評価や相互評価の活動を指導過程に取り入れることなどが必要である。つまり、一人一人の書く意欲を喚起するとともに、個に応じて書くことの内容や方法を教え、教師や友達からの評価によって自信をつけさせていく授業を展開することが、「書くこと」の能力を高めるためには大切であるととらえる。

2 指導と評価の一体化を図るためのポイント

上記のような授業を展開するために、指導と評価の一体化を図るためのポイントを次の5点と考え、具体的に研究を進めた。

- (1) 育成する言語能力の明確化
- (2) 「努力を要する」状況(C)に至ることのないような指導の工夫
- (3) 相互評価活動の効果的な活用
- (4) 指導目標に対する個々の学習状況を見る評価
- (5) 評価結果に応じた(個別の)指導・支援

(1) 育成する言語能力の明確化

学習指導要領の「書くこと」における内容（以下「指導事項」と略記）11項目のうち、その単元で指導するのはどの指導事項かを明確にする。このように、育成すべき言語能力を明らかにした上で、生徒の実態に即した授業を構想する。また、評価においては、その言語能力が「おおむね満足できる」状況（B）となるような学習の実現状況を評価規準とする（評価規準は、「おおむね満足できる」と判断される状況（B）を示している）。さらに、生徒に対して学習の目標を明示することで、学習への取り組みが主体的・意欲的になり、自己評価や相互評価の際も視点が明らかになる。

(2) 「努力を要する」状況（C）に至ることのないような指導の工夫

基礎・基本の確実な定着を図る観点から、「努力を要する」と判断される状況（C）に至る生徒を出さないように、教師が指導を充実させることが何より肝心である。充実した指導こそが、適切な評価につながると考える。「書くこと」の指導においては、書くことに対する興味・関心を喚起することが指導の第一段階となる。そこで、生徒の興味・関心を引き出したり、書くことに対する苦手意識を払拭したりするために、目的意識や相手意識をもたせられる題材や他の領域と関連した題材を設定し、学習指導要領に例示されている言語活動の活用を図りながら、授業を展開していく必要がある。

(3) 相互評価活動の効果的な活用

指導過程に相互評価活動を取り入れて、生徒同士の学び合いの場を位置づけることにより、学習意欲の喚起と学習目標の意識化を図ることができる。「書くこと」の指導において相互評価を取り入れることは、生徒が学習意欲を高めたり、自己の学習状況を把握したりする上で効果的である。また、取材ないし構想の段階及び記述後の段階において、同じ題材のもとに書かれた友達の作品を読むことで、様々な考え方や表現の仕方があることに気づき、自分の考えを深めたり、表現力を高めたりすることが可能となる。また、生徒自身が評価者となることで、学習の目的が意識付けられ、書く能力の向上につながる。

(4) 指導目標に対する個々の学習状況を見る評価

授業中や授業後に、ワークシート、相互評価表、評価カード、観察、作品、ノートなどを活用し、目標に対する生徒一人一人の学習状況やつまづきをとらえる評価を実施する。その際、完成された文章（作品）だけが評価の対象ではないことに十分留意する。また、教師による評価だけでなく、生徒自身が自らの学習状況を把握できるものになるよう工夫する。目標に準拠した評価は、生徒一人一人の目標の実現状況を的確に把握し、学習状況の改善に生かしていくことが重要である。

(5) 評価結果に応じた（個別の）指導・支援

評価結果を次の学習に生かし、個に応じた指導を進めていくために、評価結果に応じた補充的な学習や発展的な学習についてあらかじめ計画をたてておく。特に、「努力を要する」状況（C）と判断された生徒には、「おおむね満足できる」状況（B）になるように適切な指導・支援を具体的に講じることが必要である。

3 「努力を要する」状況（C）の生徒への指導の手立て

学習の実現状況が、「努力を要する」状況（C）と判断された生徒に対しては、その生徒が意欲をもち、具体的な課題を意識できるような働きかけをすることが大切である。

本研究では、生徒個々の学習状況を的確に把握して、「個別指導や理解の程度に応じた指導」や「教材の工夫」など指導方法の改善を行った。具体的には、次のようなことが挙げられる。

ア 自己評価・相互評価の活用

生徒が自己評価や相互評価を行い、自分で学習状況に気づき、新たに意欲や課題をもって自力で取り組もうとする場面を設定する。

イ 教師による肯定的なコメント

評価結果に即して、教師が、授業中の机間指導などで「ほめる」「励ます」「アドバイスを与える」などをしたり、ワークシートやノートに適切なコメントを記入したりする。

ウ 繰り返しの学習

次時の導入場面で既習事項を確認する時間を設定したり、既習のワークシートを再度活用したりするなど、学習展開の改善を図る。

エ 補充の指導

授業中または特別な時間を設定し、補充指導を行う。

これらのことを踏まえ、本研究では、次のように授業を行った。

【事例1】「読むこと」との関連を図った指導〈第1学年〉

「効果的な文章を書くことのできる能力を高める」には、「書くこと」の指導事項に示された内容の徹底を図るとともに、優れた表現に触れさせ、それを自分の表現に生かす学習活動が大切である。このことから、「読むこと」との関連を図った授業を展開し、学習過程において相互評価活動を活用する。

【事例2】相手意識を明確にもたせる指導〈第1学年〉

「相手や目的に応じて書くことのできる能力を高める」には、まず相手意識や目的意識を明確にすることがポイントとなる。その上で、書こうとする内容の中心をはっきりさせ、適切な語句を用いて整った文で分かりやすく、的確に書く。つまり、誰に向けて、どのような目的で、どのような事実や事柄について書くかを明確にした上で、必要な情報の収集活動を十分に行い、内容を豊かに整えることが大切である。

【事例3】継続的かつ繰り返しの指導〈第3学年・選択〉

「論理的に書く能力を育てる」には、自分が書こうとする論点や考えをはっきりさせ、それに必要な情報を収集し、選択し、根拠を明確に示して説得力のある論理の展開を工夫することが求められる。とりわけ「意見文」では、自分の立場をはっきりさせるとともに、誰に、何のために、どんな内容を伝えるのかを明確にしなければならない。こうした言語能力は、継続的かつ繰り返しの指導によって育成される。

IV 指導事例

【事例1】「読むこと」との関連を図った指導〈第1学年〉

本事例は、「読むこと」の授業から題材を得て、作品の中の登場人物の気持ちになって日記を書く学習活動である。「読むこと」の学習によって登場人物の心情や状況の把握ができていますので、生徒は興味・関心をもって文章を書くことができます。また、書いた日記を互いに読み合うことにより、様々な気持ちのとらえ方や表現の仕方を理解することができる授業である。

1 単元名 日記を書こう ～「麦わら帽子」(今江祥智)を読んで

(出典 「国語1」光村図書)

2 指導と評価の一体化を図るための工夫

①	育成する言語能力の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい事実や自分の気持ちを明確にすること [Bイ] ・書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方を自分の表現の参考にすること [Bオ]
②	「努力を要する」状況(C)に至ることのないような指導の工夫	「読むこと」の学習と関連させた題材を設定し、事実だけでも書けるようにさせる。また、文例をいくつか用意しておき、書けない生徒には参考にさせる。
③	相互評価活動の効果的な活用	推敲段階に相互評価活動を取り入れる。一度、書き上げたところで相互評価を行い、他の人から寄せられた意見や文章を参考にしながら改めて書き直しをし、よりよい文章にする。
④	指導目標に対する個々の学習状況を見る評価	観点を明確に示した「相互評価表」を用い、観点項目に沿って相互評価、自己評価する。
⑤	評価結果に応じた(個別の)指導・支援	メッセージカードを活用し、生徒相互でアドバイスをし合うとともに、教師がコメントをつけて返す。また、発展的な指導として「主人公の日記」を書かせる。

3 授業計画(6時間扱い)

第1・2時	主人公マキの人物像と成長をつかむ。
第3時	あんちゃん(主人公以外の人物)の人物像をつかむ。
第4時	あんちゃんの立場になって、この日の出来事について「あんちゃんの日記」に書く。
第5時	他の生徒の作品を観点に沿って相互評価し、その結果を発表する。
第6時	相互評価をもとにして、よりよい文章になるよう書き直す。

4 指導の計画と評価例

◇第4時（◎は評価の対象となる学習活動）

評価規準	伝えたい事実や事柄、自分の考えや気持ちを明確にして書いている。 【書く能力】		
主な学習活動	◎①「あんちゃ」の立場になって、この日の出来事について「あんちゃの日記」に書く。その際、次の事柄を中心にして書く。 ア どんな出来事があったのか。 ▶【評価方法】書かれた文章 イ そのとき、どんなことを思ったのか。		
評価の基準		「おおむね満足できる」状況（B）	「十分満足できる」状況（A）
	書く能力	読む相手を意識しながら、事実や事柄、自分の考えや気持ちを明確にして、表現を工夫して分かりやすく書いている。	相手意識を明確にもち、事実や事柄が効果的に伝わるように、豊かな表現や形式を工夫して分かりやすく書いている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て			
事実や事柄について、箇条書きの書き方を示して、それぞれの事実や事柄ごとに書かせる。また、文例をいくつか用意しておいて参考にさせ、個別指導で一場面の作成を一緒に行い、支援する。			

◇第5時（◎は評価の対象となる学習活動）

評価規準	○書いた文章を互いに読み合い、長所や特徴に着目して評価・批評しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ○書いた文章を互いに読み合い、長所や特徴に着目して相互評価表に書いている。 【書く能力】		
主な学習活動	◎①他のグループの作品を読んで、グループ内で相互評価表の観点に沿って評価し、記入する。 ▶【評価方法】相互評価表、観察 ②相互評価した結果について、グループごとに具体的に発表する。		
評価の基準		「おおむね満足できる」状況（B）	「十分満足できる」状況（A）
	関心意欲態度	文章中の主題や工夫などの長所や特徴に着目し、書き手のものの見方や考え方に感想をもとようとしている。	文章中の表現の工夫をとらえ、長所や改善点を指摘し、書き手のものの見方や考え方を理解しようとしている。
	書く能力	文章中の主題や工夫などの長所や特徴に着目し、相互評価表に書いている。	文章中の表現の工夫をとらえ、長所や改善点を指摘し、相手に正確に伝わるように相互評価表に書いている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て			
個別指導で、文章中の長所または特徴を一つ例示し、それがどこに記述されているかを探させ、傍線を引かせる。さらに、相互評価表の一項目について一緒に行い、支援する。			

【事例2】相手意識を明確にもたせる指導〈第1学年〉

本事例は、自分が説明したい事柄を、相手にわかるように順序立てて説明する文章を書く学習活動である。生徒が文章を書く上での抵抗感の理由として、「何を書いてよいか分からない」という題材や内容に関する問題や、「どう書けばよいか分からない」という書き方に関する問題が挙げられる。そこで、相手意識をはっきりともたせることにより、伝えたいことや書こうとする内容の中心を明らかにして、説明の順序や書き方について学習する授業である。 ▶ 9ページ「参考資料」参照

1 単元名 分かりやすい説明文を書こう - 「～の仕方」「～の作り方」「～の育て方」

2 指導と評価の一体化を図るための工夫

①	育成する言語能力の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中から題材を集め、考えをまとめること [Bア] ・書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方などについて自分の表現の参考にすること [Bオ]
②	「努力を要する」状況（C）に至ることのないような指導の工夫	題材が探せない生徒には、具体例を示す。また、書き方の分からない生徒には、他の生徒の文章を参考にさせたり、工夫したところを発表させたりして考えさせる。
③	相互評価活動の効果的な活用	清書した説明文を読み合い、他の人の文章表現のよいところに気づき、自分の文章に生かすよう相互評価を行う。
④	指導目標に対する個々の学習状況を見る評価	①文章の組み立てを考えるために「構想カード」を活用する。②自分の書いた文章の表記の仕方を見直すために「推敲カード」を活用する。③説明文を読み合い、表現上の工夫を理解するために「評価カード」を活用する。
⑤	評価結果に応じた（個別の）指導・支援	生徒相互の学びの場を多く取り入れ、支援・助言する。一人一人の作品に長所や励ましの言葉を添え、書くことへの意欲を喚起する。

3 授業計画（5時間扱い）

第1時	学習のねらいを確認し、題材を集める。
第2時	文章の組み立てを考え、「構想カード」に従って下書きをする。
第3時	下書きを推敲し、清書する。「推敲カード」を活用する。 ▶ 9ページ参照
第4時	グループ内で、清書した説明文を相互評価する。「評価カード」を活用する。
第5時	相互評価の結果を発表し、学習の反省や感想をまとめる。

4 指導の計画と評価例

◇第1時 (◎は評価の対象となる学習活動)

評価規準	○題材や調べる材料に関心を持ち、必要な資料を積極的に調べようとしている。 【関心・意欲・態度】 ○自分の課題に沿って、身近な生活の中から題材を見付けられる。 【書く能力】		
主な学習活動	①学習のねらいを確認する。 ②身の回りの生活や学習の中から関心のある課題を見付ける。 ◎③自分の課題に沿って、図書館の本などから材料(情報)を集める。 ▶【評価方法】観察		
評価の基準	「おおむね満足できる」状況(B)	「十分満足できる」状況(A)	
	関心意欲態度	題材や調べる材料に関心を持ち、関連する資料を積極的に調べようとしている。	題材や調べる材料に質的な高まりが見られ、取り組む態度に熱心さや積極性が見られる。
	書く能力	自分の課題に沿って、図書館やWebサイトなどから必要な資料を集めている。	自分の課題に沿って、図書館やWebサイトのほか、雑誌や新聞などから必要な資料を広く集めている。
「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への指導の手立て			
課題を見付けられる参考資料等を提示し、興味・関心のもてるものを選べるよう助言する。または、図書館での本の探し方を一緒に行き、助言する。			

◇第5時 (◎は評価の対象となる学習活動)

評価規準	○書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の集め方などについて自分の参考にする。 【書く能力】	
主な学習活動	◎①他のグループの作品を読んで、グループ内で「評価カード」の観点に沿って評価し、記入する。 ▶【評価方法】評価カード、観察 ②相互評価の結果をもとに、自分の文章を推敲し、清書する。	
評価の基準	「おおむね満足できる」状況(B)	「十分満足できる」状況(A)
	書く能力	文章中の題材のとらえ方や材料の集め方などに着目し、長所を自分の説明文の参考にする。
「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への指導の手立て		
個別指導で、説明文の参考例を示し、同様に書けるよう助言する。また、必要な材料が見付けられるよう参考資料を提示し、興味・関心のもてるものを選べるよう助言する。さらに、他の生徒の文章を参考にさせたり、工夫したところを発表させたりして、支援する。		

【事例3】継続的かつ繰り返しの指導〈第3学年・選択〉

本事例は、1単位時間の授業の中で、提示された題材について10分間で200字の意見文を書き、書いた文章を相互に評価し、題材のとらえ方、論理の展開の仕方、材料の活用の仕方などを学び合う学習活動である。題材、字数、時間などの制限がある中では、分かりやすく簡潔な文章を書く工夫が必要になる。つまり、ある条件の範囲の中で相手に自分の考えや意見をよりよく伝えるために、書く内容を検討し、吟味し、精選するなどして、分かりやすくまとめたり、話の中心となる内容を的確に書き表したりすることが求められる。こうした書く能力を、継続的かつ繰り返しの指導を通して、確実に向上させる授業である。

1 単元名 200字で自分の考えを伝えよう

2 指導と評価の一体化を図るための工夫

①	育成する言語能力の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにして書くこと [Bエ] ・書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方などについて自分の表現に役立てること [Bカ]
②	「努力を要する」状況(C)に至ることのないような指導の工夫	題材、情報収集、文章構成等のいずれかのつまづきかを分析して指導する。言語事項に関しては、漢字、語彙、文法、書写等の観点から指導する。作品には、具体的な改善方法や励ましのコメントを添える。
③	相互評価活動の効果的な活用	書いた文章を相互に評価し、題材のとらえ方、論理の展開の仕方、材料の活用の仕方などを学び合う。これを繰り返すことによって、評価の質や書くことへの積極性が向上する。
④	指導目標に対する個々の学習状況を見る評価	「評価カード」を活用し、題材のとらえ方は適切か、評価の結果を次の作品に生かしているか等の観点で相互評価する。
⑤	評価結果に応じた(個別の)指導 ・支援	補充的な指導として、「新聞のコラムなどを読んで情報を収集し、それについての作文を書く」など、個別に課題を提示し、指導する。

3

授業計画(6時間扱い)

第1～5時	提示された課題について30分程度(次第に5分ずつ時間を短くする)で200字の意見文を書き、相互評価をする。この学習活動を繰り返す。
第6時	評価結果について発表を行い、学習の反省や感想をまとめ、意欲づけを行う。

4 指導の計画と評価例

◇第5時 (◎は評価の対象となる学習活動)

評価規準	○書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の活用の仕方などについて自分の表現に役立てる。 【書く能力】		
主な学習活動	①他の生徒の作品を読んで、「評価カード」の観点に沿って評価し、記入する。 ▶【評価方法】評価カード ◎②相互評価の結果をもとに、自分の文章を推敲し、清書する。		
評価の基準		「おおむね満足できる」状況 (B)	「十分満足できる」状況 (A)
	書く能力	文章中の題材のとらえ方や材料の集め方などに着目し、長所を自分の文章の参考にする。	文章中の題材のとらえ方や材料の集め方などの長所や改善点を指摘し、自分の文章に取り入れる。
「努力を要する」状況 (C) と判断される生徒への指導の手立て			
個別指導で、新聞のコラムなどを読んで情報を収集し、それについての作文を書かせる。その際、必要な材料が見付けられるよう参考例を具体的に提示し、興味・関心のもてるものを選べるよう助言する。さらに、他の生徒の文章を参考にさせたり、工夫したところを発表させたりして、支援する			

参考資料

「【事例2】相手意識を明確にもたせる指導」で活用した「推敲カード」

<p>推敲カード</p> <p style="text-align: right;">○○組 ○○番 氏名 ○○○○</p>	<p>《自己評価項目》</p> <p>1 わかりやすく、きちんとした説明がされているか。</p> <p>2 構成・段落分けは適切か。</p> <p>3 相手に伝えるための表現上の工夫をしているか。</p> <p>4 文字は丁寧で、語句や記号の使い方は適切か。</p> <p>○表現の上で工夫した点</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○修正した文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約三分くらいを目安にやってみましょう。 ・バタフライの手の回し方は、キックと同様で、両手をそろえてまわします。この時、腕は曲げずに、しっかりのばします。 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○もとの文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約三分くらいを目安にやってください。 ・バタフライの手の回し方は、腕を曲げずに、しっかり伸ばして、両手をそろえてまわします。 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手の興味をひきつけるように工夫して書いた。 ・読み手にわかりやすく、正確に伝わるように段落を分けた。 ・具体的な数量や大きさなどを示した。 ・専門用語は使わなかった。 ・擬態語や擬声語などイメージを豊かにもつように表現した。 </div> </div>
--	---

V 研究のまとめ

指導と評価の一体化を図るための5つのポイントを踏まえ、評価結果を生かした効果的な指導の工夫について研究に取り組んだ成果として、次のようなことが挙げられる。

1 効果的な指導の工夫

「書く能力」を育成するためには、生徒が日頃からもっている興味・関心や書くことに対する必要感などを生かしながら、基礎的・基本的な表現力を定着させるように指導の充実を図ることが大切である。

また、評価結果に応じて、生徒が自信や成就感をもてるように工夫したり、丁寧で継続的な指導を繰り返し行うようにすることなども必要である。

ア 目的意識や相手意識をもたせられる題材や他の領域と関連した題材を設定し、言語活動の活用を図りながら、授業を構想する。また、自己評価や相互評価活動を活用し、生徒の学習意欲を喚起する。

イ 与えられた情報についてまず正確に受け取り、それを文章表現に生かすという「読むこと」と「書くこと」の関連を図った指導を取り入れる。とりわけ、論理的な文章を「序論・本論・結論」などの文章全体の構成を考えながら読解し、それらを文章表現の学習に生かすことなどが挙げられる。

ウ 事実を踏まえつつ、自分の意見や感想を書く学習活動を重視する。そのため、日頃から情報収集や話し合いなどを通して自分の意見や感想をもち、書くことに生かすようにする。また、身近な生活や社会での出来事に目を向け、関心をもったことや気付いたことについてメモする習慣を身に付けさせる。

エ 基礎的・基本的な事項の学習を重ねたり、身に付けた能力をさらに習熟させたりする補充的な指導や、生徒の興味・関心等に応じて教材の範囲を広げたりする発展的な指導を、指導過程にあらかじめ計画しておく。

2 「指導と評価の計画」の作成

「書く能力」を中学校三年間で確実に身に付けさせるためには、「指導と評価の計画」を作成し、指導と評価の一体化を図ることが大切である。

指導計画では、指導のねらいを明確にし、言語活動例の活用を図りながら生徒の書く機会を多くし、書く時間を十分に確保することが大切である。また、評価計画では、学習活動に即した具体的な評価規準を踏まえ、多様な評価方法を工夫していくことが大切である。

3 敬語表現の指導の工夫

平成14年度に東京都教育委員会が実施した「基礎的・基本的な内容の定着に関する調査」の結果、中学1年生では「漢字の書き」と敬語表現などの「言葉のきまり・表記等」の定着状況が低いことが明らかになった。特に、敬語表現については、コミュニケーション能力の基本として、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動を通して、日常生活の具体的な場面を想定したり、他の教科や総合的な学習の時間などで使えるように働きかけたりする指導が必要である。例えば、「職場訪問のお礼の手紙を書く」学習活動で、敬語表現を使って相手への思いやりや配慮に気をつけて書くなどの指導の工夫が挙げられる。